

女子大学

企画課管理用 教 — E — 1

推進主体	運営委員会
責任者	女子大学長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	—	E	リベラルアーツ教育の充実に対応する総合的な学習支援体制の構築	令和 4 年度	令和 7 年度	あり(予定)

① 目的・内容

本中期計画の中核事業であるリベラルアーツ教育の再定義とカリキュラム再編成に総合的な総合的な学習支援体制を構築する。1, 2年生の間に多様な学問分野に触れたのち、自律的に自らの進む専門分野を決定するリベラルアーツ教育を真に意味あるものにするためには、多様な分野に触れる際のある種の計画性や戦略性を個々のニーズに応じて学生が獲得できる支援体制の構築が必要となる。そのため、二つのコンポーネントを整備する。①リベラルアーツ教育に総合的なラーニング・サポート・システム(ルーム)の構築: リベラルアーツ教育において必要なラーニング・サポート・システム(ルーム)(LSR)のあり方について、米国のリベラルアーツ大学の事例分析等を踏まえて検討し、新たなシステムを漸進的に構築する。レポート力や文献調査力などの学びの共通基盤構築に係る支援にとどまらず、リベラルアーツ教育の中で多様な視野を保ちつつ専門性を高めていく道程やそれらの将来のキャリア開発に対する連結などに対する助言機能を含むLSRを構想する。②図書館のオンライン・サービスの充実: 学内の知の拠点としての図書館の学生向けオンライン・チュートリアルコンテンツの充実を図り自律的な学びを支援する。また、図書館で購入する図書の一部割合を電子書籍とし、学外アクセスで利用できる図書を増強し、コロナ禍のような事情でも学習・研究を継続できる環境を整える。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

(1) 新たな学習支援サービスの導入。(2) 図書館のオンライン・チュートリアルコンテンツの充実。(3) 電子書籍の充実(毎年度の経常図書費の10%以上を電子書籍の購入に充てる)。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	
予定		→					→	
		新学習支援体制構築のための調査		新学習支援体制の展開、点検・評価、仕組みの改善				
							→	
				図書館オンライン・チュートリアル の充実、経常図書費の10%以上の電子書籍の購入				

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	経常図書費に占める電子書籍の割合	毎年度の「電子書籍購入費÷経常図書費×100」の値					
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標	—	10%以上	10%以上	10%以上	10%以上	10%以上	10%以上
実績	15.7% (2020年度)	10.0% (2022年12月時点)	14.4% (2024年2月時点)	10.7% (2024年10月時点)	10.0% (2026年1月時点)		
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	①米国のリベラルアーツ教育等の分析を通じて、リベラルアーツ教育に適切な学習支援について検討を進める。②現行のラーニング・サポート・ルーム(アカデミックアドバイザーによる個別相談等)を規模を縮小して実施する。③学生の自律的学びの支援に向けて図書館のオンライン・チュートリアルコンテンツの充実を図り、作成したオンライン・チュートリアルに英語と中国語の字幕を追加する。④「アセスメントテストGPS-Academic」を実施し、学修成果の分析・教育成果の検証を進める。	①については、新型コロナウイルス感染症に関して、調査環境の十分な改善がみられなかったことから、米国での調査を延期とした。②については、計画どおりアカデミックアドバイザーによる個別相談等を継続して実施した。③については、図書館の学生向けオンライン・チュートリアルは作成中であり、令和4年度中に完了する。電子書籍の購入は順調に進んでおり、令和4年度の目標を達成した。④については、前年度に引き続き実施した。加えて、本学において教育成果の可視化に向け「IRデータ集」(仮称)を作成することが決定され、これまで蓄積してきた本アセスメントテストの結果についても、より有効に教育改善の資料とする方向での検討が開始された。
令和5年度 (2023年度)	今次の中期計画の中核事業であるリベラルアーツ教育の再定義とカリキュラムの再編成に総合的な総合的学習支援体制を構築する。2年目の令和5年度は、次の事業を実施する。① リベラルアーツ教育において必要なラーニング・サポート・システムのあり方について、米国のリベラルアーツ大学の事例分析等を踏まえて検討を進める(コロナ禍により令和4年度に予定した調査を令和5年度に延期)。②探究的で実践的な学びの深化を図る一環として新設するインディペンデント・スタディにおける自発的な研究活動を支援するため同科目履修者に研究支援費を交付する。同スタディに対応した図書館施設の充実を図る。	米国のリベラルアーツカレッジの訪問調査とカリキュラムに関する聞き取り調査を行い、「米リベラルアーツカレッジ報告書—米ウェルズリーカレッジなどの事例から本学の方向性を提案する—」をまとめた。石澤靖治教授によるものであり、米国のリベラルアーツカレッジの分析だけでなく、副題が示すように本学のこれからのための提言を含むものである。今年度より「インディペンデント・スタディ」がスタートし、探究調査費の使用について規程を設けて調査を実施した。また、同授業科目はアカデミック・リサーチと職業選択・キャリア形成、在校生と卒業生をつなぐものであり、卒業生を招いて本学での学びとその後の職業について講演と討議を行った。
令和6年度 (2024年度)	大学入学後に多様な学問分野に触れたのち、自らの関心領域を定め専門を深めていくリベラルアーツ教育の改善では、学生への支援体制の構築が不可欠である。令和4年度に実施した図書館のオンライン・チュートリアルの整備、令和5年度に実施した米国調査を踏まえて、これまでのラーニング・サポート・システムの検証を行い、図書館を利用した学生指導を含めその再構築に向けた検討を進め、結果をまとめる。	図書館における電子書籍の購入は順調に進んでいる。最短で令和8年4月に本学と学習院大学とを統合する計画が発案されたことから、本学のラーニング・サポート・システム(ルーム)を学習院大学のラーニング・サポートセンターの事業の一部とすることについて、令和6年度は本学のこれまでの運用実績等を検証し、学習院大学との事務的な調整を図った。具体的には、当面の間は本学のラーニング・サポート・システムの運用体制、機能および場所は現状維持とし、令和7年度はスタートアップとして、本学と学習院大学のラーニング・サポート事業の相互運用を試行することを進めている。したがって、令和6年度については、予算の執行は行われていない。
令和7年度 (2025年度)	令和7年度は、本学ラーニング・サポート・システム(ルーム)は学習院大学学生を対象に、また学習院大学ラーニング・サポートセンターは本学学生を対象に、相互利用の試行的運用を開始する。ただし、試行の検証結果又は統合後の学生の需要に変化があった場合には、柔軟に再検討することとなっている。そのため、令和7年度は引き続き国内旅費を計上し、他大学事例について聞き取り調査を実施して、リベラルアーツ教育に総合的なラーニング・サポート・システムの検討への足掛かりとしたい。将来的には、目的とする多様な視野を保ちつつ専門性を高めていく道程やキャリア開発への連結などの助言機能を含むラーニング・システムの構築を目指す。なお、令和6年度に予定していた報告書の作成・印刷は行わないこととする。	令和8年度における学習院女子大学と学習院大学の統合を見据え、ラーニング・サポート・システム(ルーム)の相互利用が開始されている。ノートを取り方、レポートの書き方、授業におけるプレゼンテーションに関するアドバイスといった日頃の学習の問題に対するサポートの他、語学学習のアドバイスなども行っている。また、学習院大学のラーニングサポートでは、統計などの専門性の高い分野の相談にも応じている。双方の学生にとって、キャンパス間の移動は負担になると考えられるが、対面形式による面談の他にオンライン形式の相談にも応じている。なお、図書館において電子書籍の利用活性化を進めているが、経常図書費に占める電子書籍の割合は、1月時点で10.0%(目標:10%以上)となっている。

⑥ 計画の成果・今後の方針 ※計画を中止する場合はその理由を記載のこと。	
【計画の終了理由】	学習院大学との統合により、令和7年度をもって本事業を終了とする。
【到達目標に対する結果】	学習支援体制の強化という課題に関して、令和5年度に米国のリベラルアーツカレッジの訪問調査とカリキュラムに関する聞き取り調査を行い、「米リベラルアーツカレッジ報告書—米ウェルズリーカレッジなどの事例から本学の方向性を提案する—」をまとめた。また、学習院大学との統合を見据え、目白、戸山両キャンパスの学生がラーニング・サポート・システム(ルーム)を相互利用できる体制を整えるなど、一定の成果をあげることができた。図書館の学生向けオンライン・チュートリアルや電子書籍の充実も着実に進んでいる。また、共通科目に「インディペンデント・スタディ」を設けることにより、探求的なリベラルアーツ教育を実践できるようになった。
<p>※計画完了時点で記載してください。 ○…必須事項 △…必要に応じて記載</p> <p>○②到達目標に対する結果</p> <p>○計画の中止理由(※中止する場合)</p> <p>△今後の見通し・課題(通常事業化など)</p> <p>△その他</p>	